

楽しいお茶大の生活

李曉珍（韓国・啓明大学）

4月はどのように過ぎたか分からない月だった。4月の初めは、日本に来たばかりの時期だったので適応が少し必要だった。天気も寒くて一緒に遊びに行く友達もまだいなかったためにあまり楽しく過ごせなかった。しかし、新しい環境で過ごすのは本当に興奮して期待されるものだったから、寂しくなったりしても、大変ではなかった。これまで日本の旅行はかなりしていたが、東京に来たのは今回が初めてだったから、もう少し期待をしていた。しかし、4月にはやはり、まだ日本に旅行に来たような気持ちで、一週間だけあれば、二日だけあれば韓国に帰るような気がした。観光客のような気分だった。日本語で生活することも少しぎこちない気分で、日本語もよく出なかった。すべてが新しく、ぎこちなかった。適応が必要だった時期だったから少し余裕がある生活をした時期だった。

しかし、5月はそれなりに忙しかった。5月にはゴールデンウィークもあったため、きちんと日本について楽しむようになった時期だった。新しく付き合った友達と渋谷、原宿、新宿を行った初めてプリクラを撮ってみたり日本のカラオケで歌を歌ってみたり日本の美味しいデザートとご飯を食べながら観光客とは違うもっと留学生のように日本を楽しんだ。日本に来て一ヶ月くらい過ぎた時期だったのでそれなりに日本に慣れた。日本の留学の生活をもっと豊かにゆったりと楽しむために、また日本で様々な経験を積むためにアルバイトを探し始めた。日本で就職活動を行う予定であるためにアルバイトも一つの社会の経験だから良いと思った。外国人という理由で、応募したところで断られたこともあったが、本当に働きたかったロフトで面接が決まって採用され、私の計画通りに日本での生活が問題なく流れていくような気がした。



アルバイトを始める前にいろんなところも行ってみるために待ち合わせをたくさした。浅草の三社祭りとか東京大学の大学祭とか祭りの季節が始まったことによって、私が経験していなかったお祭りについても分かるようになった。いつも学校だけで習ったり、インターネットでしか見られなかった祭りを直接見て、聞いて、経験して見ることができた。また、日本の浴衣を買って、十分に楽しむためにやったことも多かった。時間がだんだん過ぎるにつれて、韓国について、恋しくなっていて友達と一緒に新大久保に行って韓国の料理を食べて、韓国の食材を買うなど日本の中で韓国を感じることもできた経験もした。また、課題のおか

げで、興味なかったり、課題がなかったら行こうと思わなかった東京の町に行ってみてその町がどんな歴史を持っているのか来て何があるのか、何が有名なのか、どうして有名になったかについても分かってきた。

6月は日本に慣れすぎて怠惰になった感じがする月だった。アルバイトを始め、週末に勉強する時間と課題をする時間が減り、少しいい加減にする傾向が生じた。アルバイトをしない日なら遊びに行ったり、ぶらぶらしたりした。しかし、5月のようにたくさん遊びに行くことはできなかったのも記憶に残ることはあまりない。しかし、経済的には少し余裕ができて買いたかったカメラを買うか、日本の服を買うか、本当にお金持ちのようにお金を使った。生活費がもったいなくて食べなかったものもたくさん食べられるようになり、食べ物を作って食べるのも面倒で買って食べるようになり、それでちょっと太った。日本での生活については慣れたが、アルバイトについては新人だったので多くのミスをした。それによるストレスが少し大きかった。

7月は梅雨のせいで少しだるくなった。また、学校で行われた七夕の祭にも参加をした。そこで浴衣を初めて着た。それなりに美味しい食べ物も多かった。イベントも良かった。こうした行事をたくさん開いたらいいなと思った。楽しく一日を過ごした。

